



【優秀賞作品】長年連れ添った夫婦の別れと、写真に残る思い出 ～写真に写る笑顔が、今の私の支えです～

いつも病院の定期受診の帰りに、店舗へ立ち寄ってくださっていたS様ご夫婦。
スタッフが変わっても、変わらず「いつもありがとうございます」と声をかけてくださる、70代の仲睦まじいご夫婦です。
ある日、ご主人から「妻ががんかもしれない。どうしたらいいか」とご相談のお電話をいただきました。
ご加入中の保険内容のご説明に加え、付帯サービスなども含めて、できる限りの情報をお伝えしました。
その後、一時帰宅された際に店舗へお立ち寄りいただいたのが最後となり、残念ながら奥さまはご逝去されました。

保険金請求のお手続きの際、ご主人と奥さまの思い出話を交えながらお話を伺うことしかできませんでした。
が、「保険に入っていたおかげで本当に助かりました。ありがとうございました」とお言葉をいただきました。
「妻がいないと自分はあかんねん」と常々おっしゃっていたご主人は、憔悴しきっておられ、夜ひとりで過ごす自宅では、携帯の写真を見るのが唯一の楽しみだと、たくさんの写真を見せてくださいました。
そこで私は「私とも一緒に写真を撮りましょう」とお声がけし、二人で自撮りをすると、ご主人はとても喜んでくださり、表情が少し和らいだのを覚えています。
後日、再び店舗にお立ち寄りいただいた際には、「一緒に撮ってもらった写真を見ると元気が出る」と笑顔で話してくださり、今では来店されるたびに、他のスタッフとも写真を撮ってくださるようになりました。
「保険に入っていたから助かった」——その言葉の重みを胸に、私たちは、保険を通して安心を届けるだけでなく、写真という形で記憶に残る時間も大切にしていきたいと感じています。
「今日のお申し込みの記念に、一枚写真を撮りましょう」そうご案内すると、恥ずかしそうにしながらも、喜んでくださる方が多くいらっしゃいます。

保険は、もしもの時に備えるもの。
そして、人生の大切な瞬間を記憶に残すきっかけにもなるのです。